



ITA_利用手順マニュアル

エクスポート/インポート

—第1.6版—

免責事項

本書の内容はすべて日本電気株式会社が所有する著作権に保護されています。

本書の内容の一部または全部を無断で転載および複製することは禁止されています。

本書の内容は将来予告なしに変更することがあります。

日本電気株式会社は、本書の技術的もしくは編集上の間違い、欠落について、一切責任を負いません。

日本電気株式会社は、本書の内容に関し、その正確性、有用性、確実性その他いかなる保証もいたしません。

商標

- ・ LinuxはLinus Torvalds氏の米国およびその他の国における登録商標または商標です。
- ・ Red Hatは、Red Hat, Inc.の米国およびその他の国における登録商標または商標です。
- ・ Apache、Apache Tomcat、Tomcatは、Apache Software Foundationの登録商標または商標です。
- ・ Ansibleは、Red Hat, Inc.の登録商標または商標です。
- ・ AnsibleTowerは、Red Hat, Inc.の登録商標または商標です。

その他、本書に記載のシステム名、会社名、製品名は、各社の登録商標もしくは商標です。

なお、® マーク、TM マークは本書に明記しておりません。

※本書では「Exastro IT Automation」を「ITA」として記載します。

目次

はじめに	3
1 エクスポート/インポートの概要	4
2 エクスポート/インポートのメニュー、画面構成	5
2.1 メニュー 一覧	5
3 機能・操作方法説明	6
3.1 メニューエクスポート	6
3.2 メニューインポート	8
3.3 エクスポート/インポート管理	10
3.4 Symphony/オペレーションエクスポート	11
3.5 Symphony/オペレーションインポート	12
3.6 Symphony/オペレーションエクスポート/インポート管理	14
4 備考	15
4.1 Symphony/オペレーションエクスポートで取得できるデータについて	15
4.1.1 Symphony エクスポート	15
4.1.2 オペレーションエクスポート	19

はじめに

本書は、ITA のエクスポート/インポートの機能および操作方法について説明します。

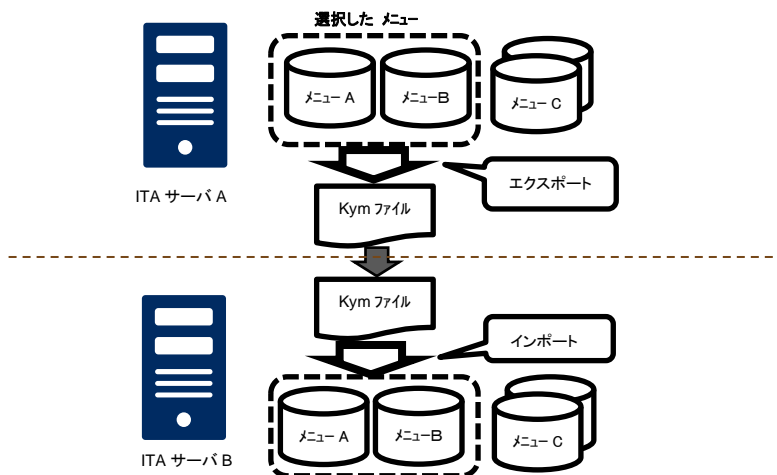
1 エクスポート/インポートの概要

本章ではエクスポート/インポートの機能、操作方法について説明します。

エクスポート/インポートは、以下の2つの方法でデータを移行する機能を提供します。

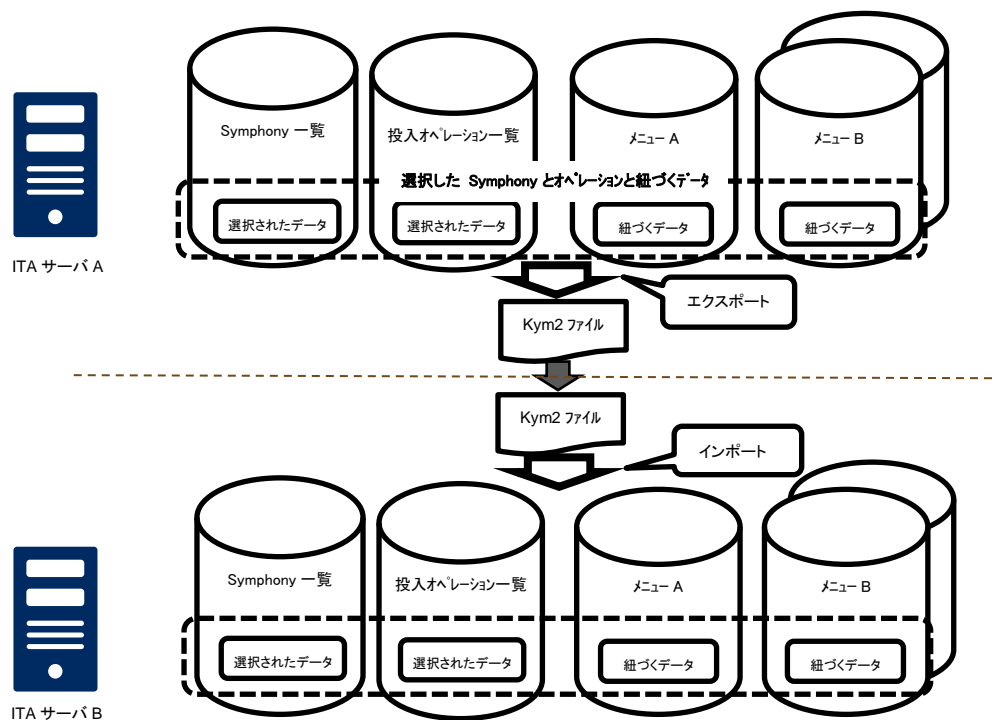
(1) メニュー

移行したい ITA のメニューを選択し、メニュー単位でデータを上書きで移行します。



(2) Symphony／オペレーション

移行したい Symphony とオペレーションを選択し、Symphony とオペレーションに紐づくデータを上書きで移行します。紐づくデータについては、「[4.1 Symphony/オペレーションエクスポートで取得できるデータについて](#)」を参照してください。



2 エクスポート/インポートのメニュー、画面構成

本章では、エクスポート/インポートのメニュー、画面構成について説明します

2.1 メニュー 一覧

エクスポート/インポートのメニューを以下に示します。

表 2-1 ITA メニュー一覧

No	メニュー グループ	メニュー・画面	説明
1	エクスポート/インポート	メニューエクスポート	メニューのデータをエクスポートします。
2		メニューインポート	メニューのデータをインポートします。
3		エクスポート/インポート管理	[メニューエクスポート]メニューで実行したエクスポートと、 [メニューインポート]メニューで実行したインポートの状況を管理します。
4		Symphony/オペレーションエクスポート	Symphony またはオペレーションに紐づくデータをエクスポートします。
5		Symphony/オペレーションインポート	[Symphony/オペレーションエクスポート]メニューでエクスポートしたデータをインポートします。
6		Symphony/オペレーションエクスポート/インポート管理	[Symphony/オペレーションエクスポート]メニューで実行したエクスポートと、 [Symphony/オペレーションインポート]メニューで実行したインポートの状況を管理します。

3 機能・操作方法説明

3.1 メニューエクスポート

ITA システムに登録されているデータを、メニューごとにエクスポートします。

※ データを別の ITA 環境に移す場合、すべてのメニューを対象に移動しないとデータの整合性が壊れる可能性があります。

- (1) エクスポートするモードと廃止情報を選択します。

モード一覧と廃止情報一覧を以下に示します。

表 3-1 モード一覧

名称	説明
上書き	インポート時、既存データをすべて削除してデータを上書きします。
追記	インポート時、既存データとの差分のみ追加します。 一意キー(ID や No 等)が重複した場合は既存データが優先されて保持されます。

表 3-2 廃止情報一覧

名称	説明
廃止を含む	廃止状態のデータを含むすべてのデータをエクスポートします。
廃止を除く	廃止状態のデータを除いたデータをエクスポートします。

(2) エクスポートするメニューを選択します。

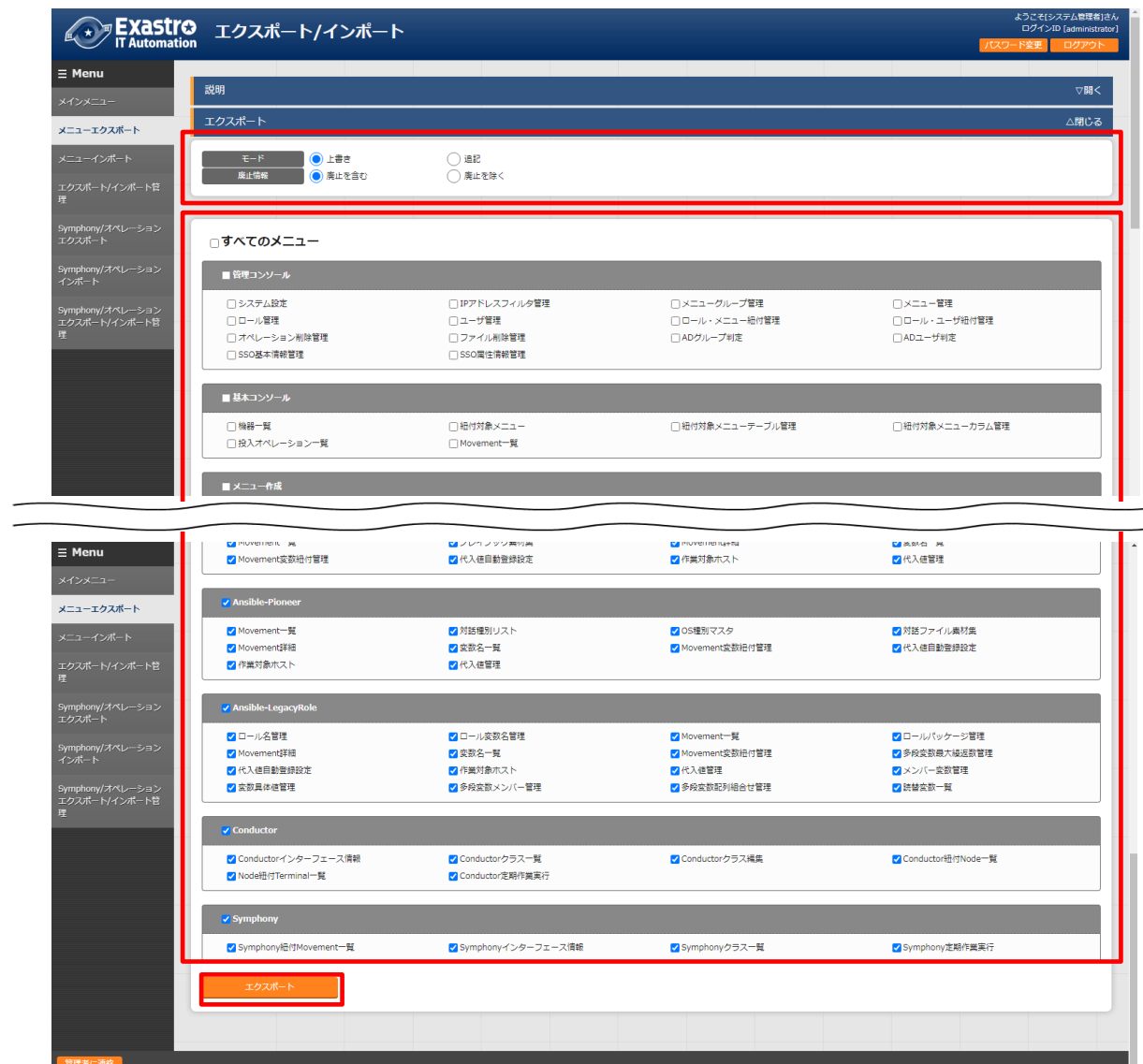


図 3-1 メニューエクスポート画面(1)

(3) メニューを選択後、「エクスポート」ボタンを押下します。

エクスポート処理の実行No.が表示されるので、エクスポート/インポート管理画面で処理のステータスを確認してください。

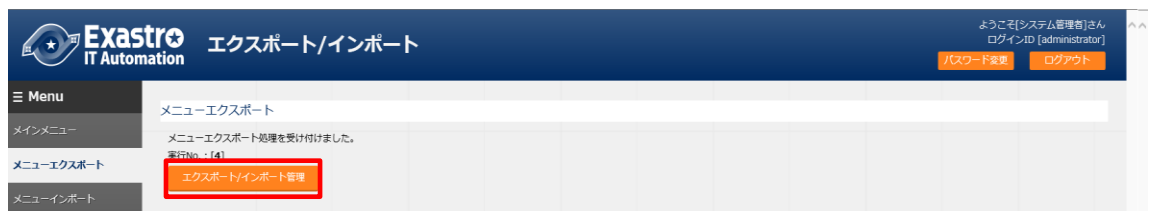


図 3-2 メニューエクスポート画面(2)

3.2 メニューインポート

[メニューエクスポート]メニューでエクスポートしたデータをインポートします。

- (1) インポートするファイルを選択して「アップロード」ボタンを押下します。



図 3-3 メニューインポート画面(1)

- (2) インポートしたファイル内のメニューの一覧が表示されます。インポートするメニューを選択して「インポート」ボタンを押下します。
- チェックボックスがチェックされているメニューがインポートされます。
- インポートする必要がないメニューは、チェックは外してください。

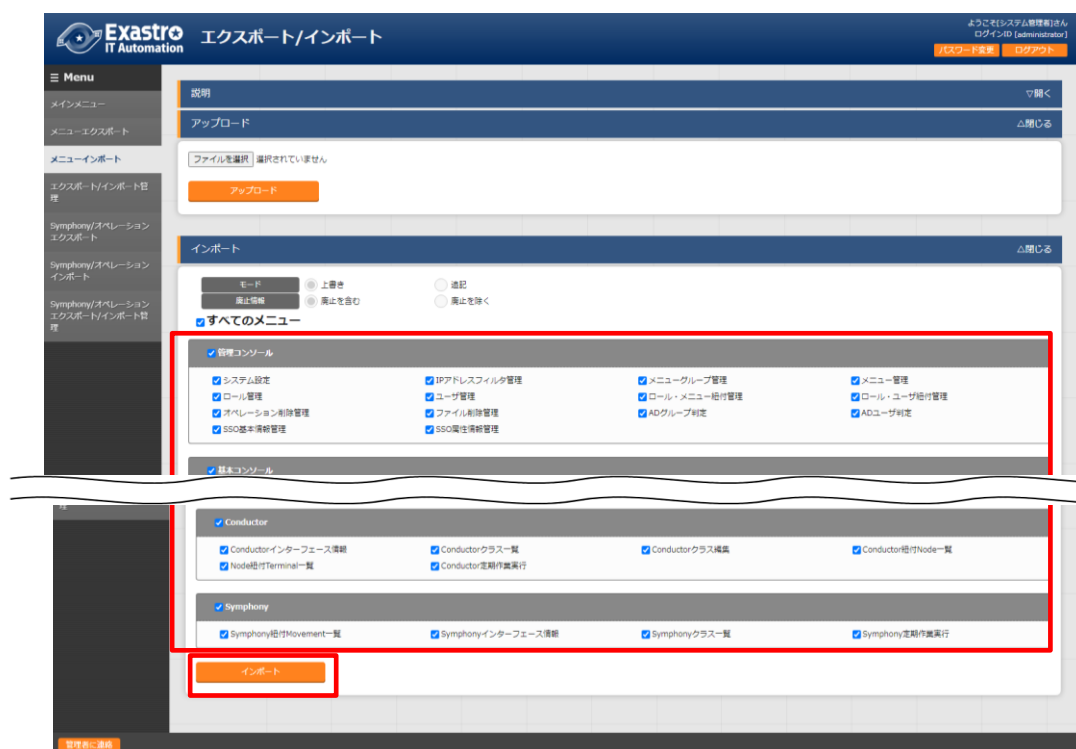


図 3-4 メニューインポート画面(2)

- (3) 受付画面に遷移します。「エクスポート/インポート管理」ボタンを押下すると、[エクスポート/インポート管理]メニューに遷移してインポートの状況確認が行えます。



図 3-5 メニューインポート画面(3)

3.3 エクスポート/インポート管理

[メニューエクスポート]メニューで実行したエクスポートと、[メニューインポート]メニューで実行したインポートの状況を管理します。

ステータスは、「未実行」、「実行中」、「完了」の順に変わります。

処理種別は、「エクスポート」または「インポート」が表示されます。

モードは、「上書き」または「追記」が表示されます。

廃止情報は、「廃止を含む」または「廃止を除く」が表示されます。

フィルタボタンをクリックしてステータスが「完了」になったことを確認してください。

ファイル名は、エクスポートの場合は「完了」になるとエクスポートデータが表示されるので、ダウンロードして使用してください。インポートの場合はインポートしたデータが表示されます。

インポート処理でエラーが発生した場合は、ステータスが「完了(異常)」になります。



図 3-6 エクスポート/インポート管理画面

表 3-3 一覧画面項目一覧(エクスポート/インポート管理)

項目	説明
実行 No.	一意の ID が自動採番されます
ステータス	「未実行」、「実行中」、「完了」の順に遷移します。 エラーが発生した場合は、「完了(異常)」になります。
処理種別	エクスポート・・・メニューエクスポート インポート・・・メニューインポート
モード	「上書き」または「追記」が表示されます。
廃止情報	「廃止を含む」または「廃止を除く」が表示されます。
ファイル名	エクスポートの場合、「完了」になるとエクスポートデータが表示されるので、ダウンロードして使用してください。 インポートの場合、インポートしたデータが表示されます。

3.4 Symphony/オペレーションエクスポート

Symphony またはオペレーションを指定して、それに紐づくデータをエクスポートします。
紐づくデータについては、「[4.1 Symphony/オペレーションエクスポートで取得できるデータについて](#)」を参照してください。
本機能は、とある ITA 環境からデータをエクスポートして、別の ITA 環境にインポートする用途を想定しています。
[[メニューエクスポート]メニューはメニュー全体のデータをエクスポートするのに対して、本機能では紐づくデータ単位でエクスポートされます。

- (1) エクスポートする Symphony とオペレーションを選択して、「エクスポート」ボタンを押下します。



3-7 Symphony/オペレーションエクスポート(1)

- (2) 受付完了画面に遷移します。「Symphony/オペレーションエクスポート/インポート管理」ボタンを押下すると、[Symphony/オペレーションエクスポート/インポート管理]メニューに遷移して、エクスポートの状況確認と、エクスポートデータの取得が行えます。



図 3-8 Symphony/オペレーションエクスポート(2)

3.5 Symphony/オペレーションインポート

[Symphony/オペレーションエクスポート]メニューでエクスポートしたデータをインポートします。

※インポートするデータは、データの一意項目(表の左端の数値)をキーにインポートされます。同じ一意項目のデータがすでにある場合は上書きされます。

※インポート後のデータの最終更新者は、すべてインポートを実行したユーザになります。

※本機能は、例えば A 環境で登録したデータをエクスポートして、B 環境にインポートして作業実行を行う、ということを想定しています。B 環境にインポート後にデータを編集した場合、各機能が正常に動作しない可能性があります。

- (1) インポートするファイルを選択して「アップロード」ボタンを押下します。

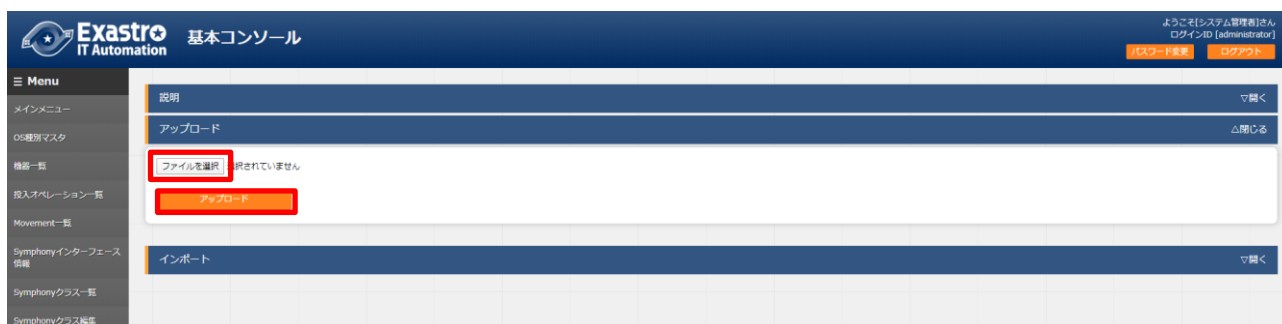


図 3-9 Symphony/オペレーションインポート(1)

- (2) インポートしたファイル内の Symphony とオペレーションの一覧が表示されます。インポートする Symphony とオペレーションを選択して「インポート」ボタンを押下します。

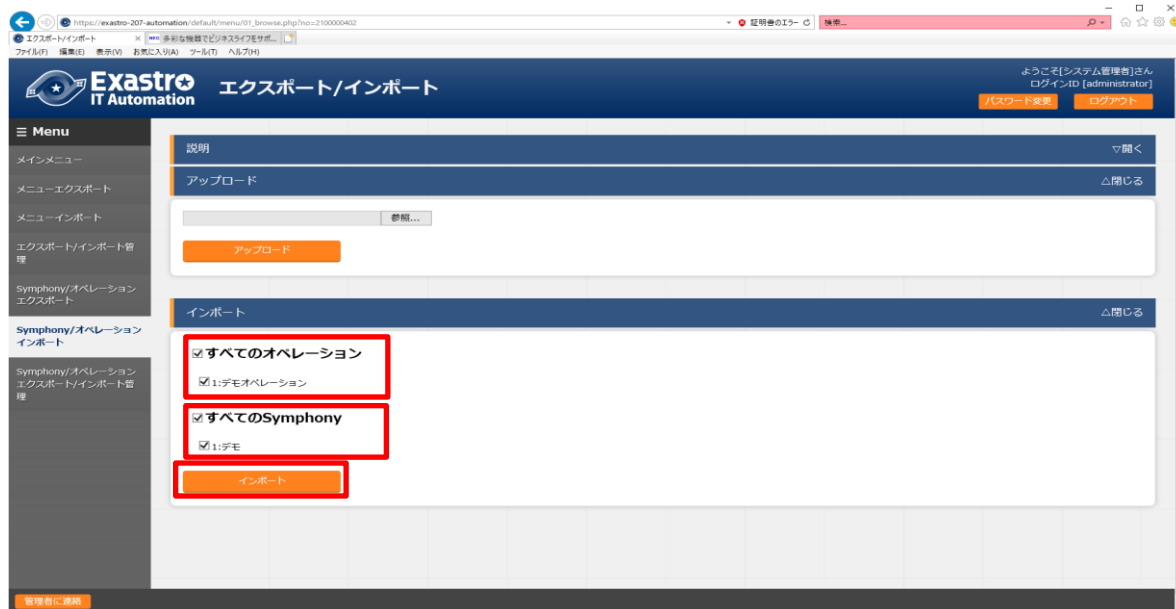


図 3-10 Symphony/オペレーションインポート(2)

- (3) 受付画面に遷移します。「Symphony/オペレーションエクスポート/インポート管理」ボタンを押下すると、[Symphony/オペレーションエクスポート/インポート管理]メニューに遷移してインポートの状況確認が行えます。



図 3-11 Symphony/オペレーションインポート(3)

3.6 Symphony/オペレーションエクスポート/インポート管理

[Symphony/オペレーションエクスポート]メニューで実行したエクスポートと、[Symphony/オペレーションインポート]メニューで実行したインポートの状況を管理します。

ステータスは、「未実行」、「実行中」、「完了」の順に変わります。

処理種別は、「エクスポート」または「インポート」が表示されます。

ファイル名は、エクスポートの場合は「完了」になるとエクスポートデータが表示されるので、ダウンロードして使用してください。インポートの場合はインポートしたデータが表示されます。

備考は、選択した Symphony とオペレーションの ID が表示されます。



図 3-12 Symphony/オペレーションエクスポート/インポート管理

画面の項目一覧は以下のとおりです。

表 3-4 一覧画面項目一覧(Symphony/オペレーションエクスポート/インポート管理)

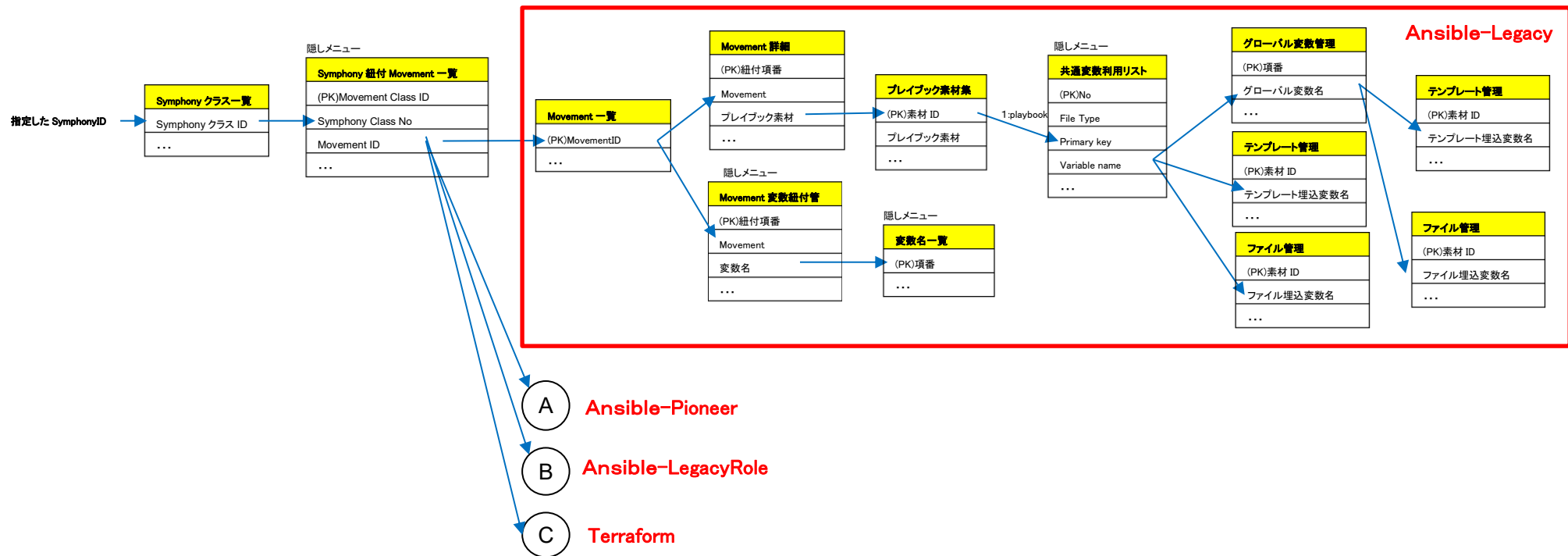
項目	説明
実行 No.	一意の ID が自動採番されます
ステータス	「未実行」、「実行中」、「完了」の順に遷移します。 エラーが発生した場合は、「完了(異常)」になります。
処理種別	エクスポート・・・Symphony/オペレーションエクスポート インポート・・・Symphony/オペレーションインポート
ファイル名	エクスポートの場合、「完了」になるとエクスポートデータが表示されるので、ダウンロードして使用してください。 インポートの場合、インポートしたデータが表示されます。
備考	選択した Symphony とオペレーションの ID が表示されます。

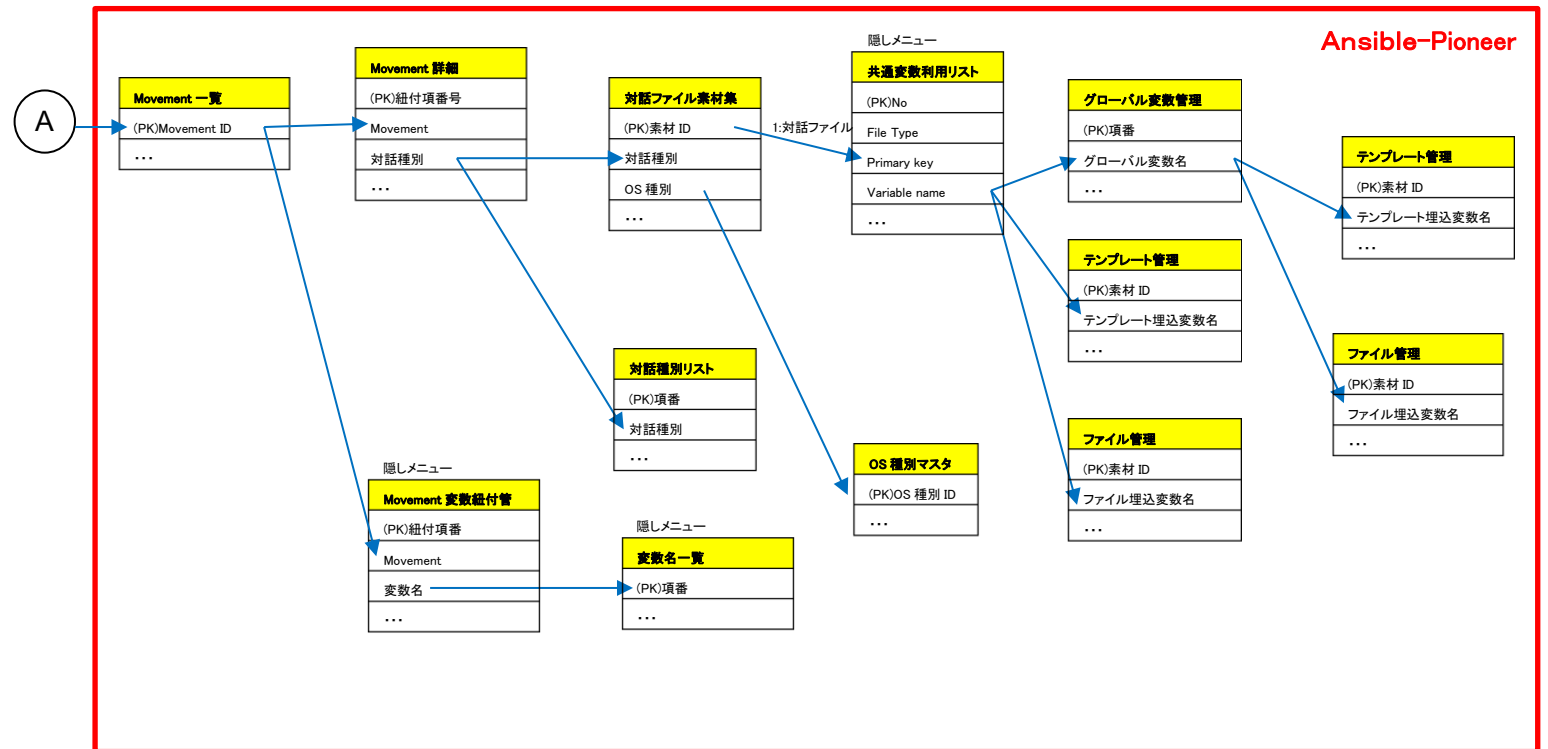
4 備考

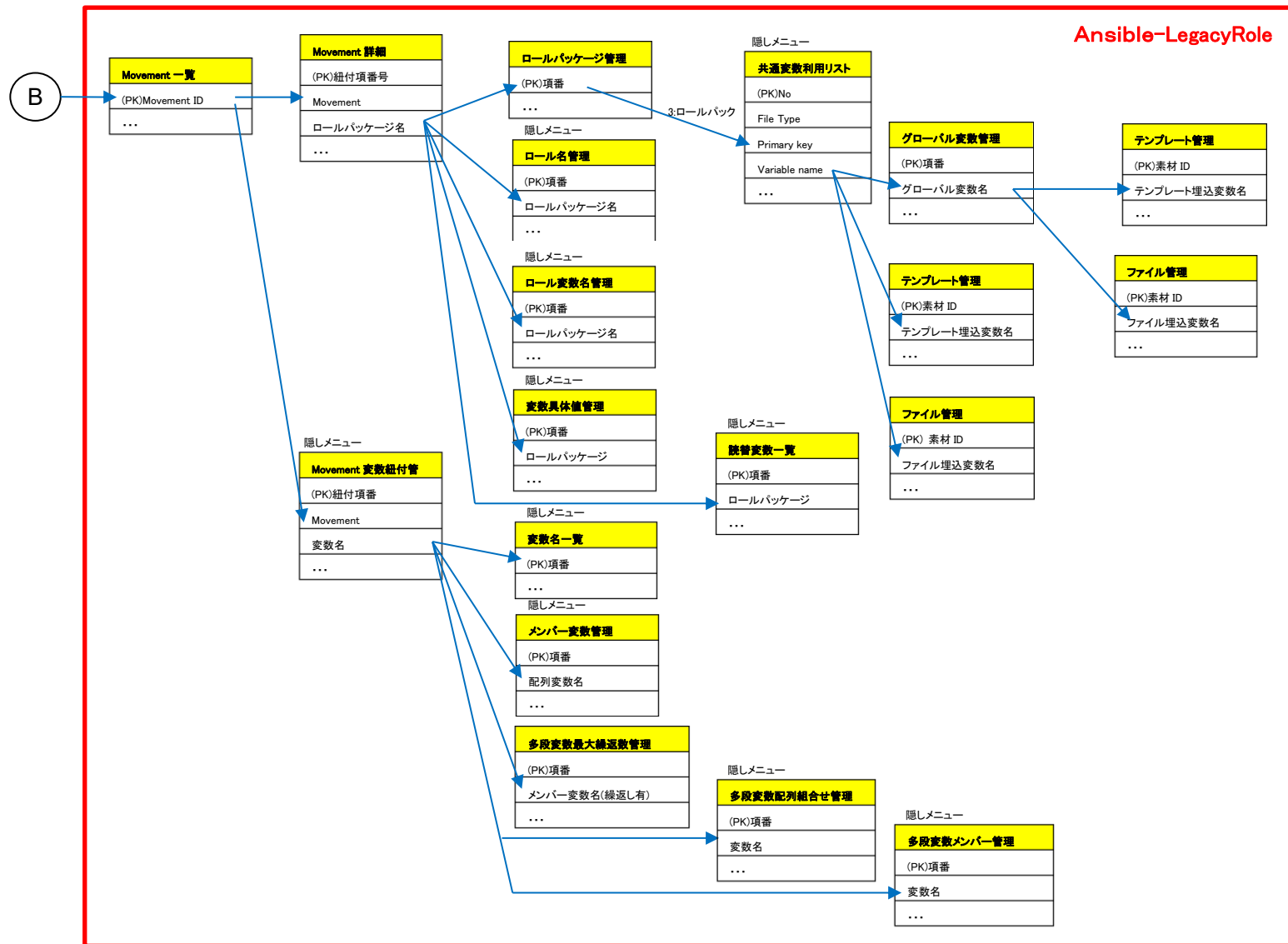
4.1 Symphony/オペレーションエクスポートで取得できるデータについて

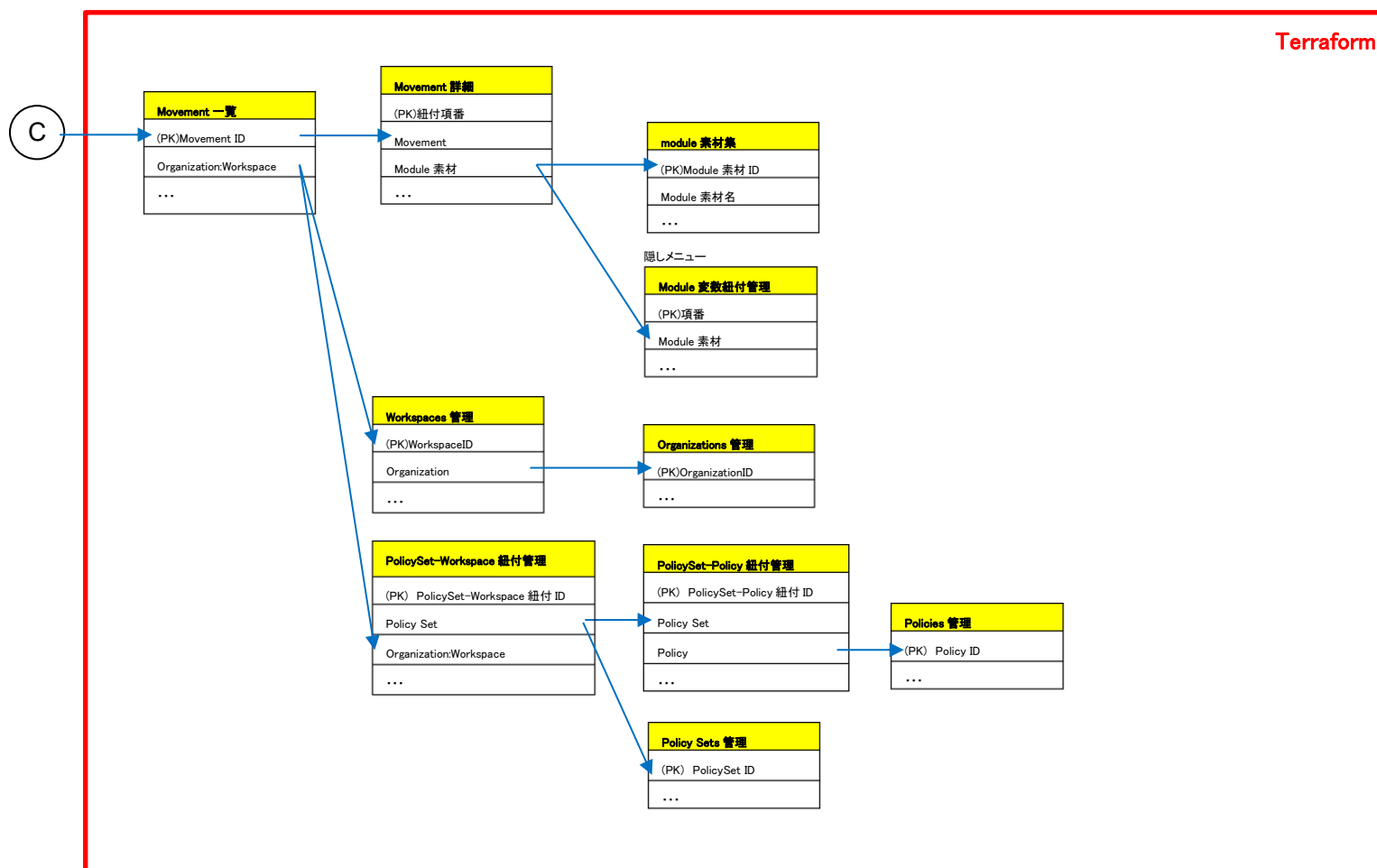
Symphony/オペレーションエクスポートで取得するデータは、紐づいているメニューを辿ってすべて取得します。各メニューの紐づけは以下となります。

4.1.1 Symphony エクスポート









4.1.2 オペレーションエクスポート

